



学校だより 9月号

つなぐ



暑さ寒さも彼岸まで？

～ 2学期のスタートにあたって私の思い ～

2学期が始まりました。夏休み中は快適な環境で過ごしていたという人が多いでしょうか。学校中心の生活から遠ざかり、自らのペースで過ごした日々であったでしょう。ひょっとしたら1日の中で一歩も外に出ていない生活をしていたという人はいませんか？多少、朝寝坊したとしても、夜遅くまで起きていたとしても何とか耐えたのでしょうが、学校が始まるとそうはいきません。まずは生活リズムを整えるところから始めるための準備期間が必要です。始業式で私がお話しをしたように1年の中で最も重要な2学期を楽しく有意義な時間を過ごすために、まずは学校生活を中心とした生活リズムを早く作りましょう。時間管理ができるようになることが大切です。またこの異常な暑さですから熱中症予防が必要なことは当然ですが、新型コロナウイルス感染症が拡大しているという報道もあります。心身ともに体調管理をしっかりすることも意識しましょう。

ところで、本当に暑い夏です（過去形ではありません…）。気象に関する話題は連日、ニュースに取り上げられています。静岡市で最高気温が41℃超、浜松市でも8月末に40℃超を記録するなど、日本各地で「この夏の暑さはさすがに異常だな。」と誰もが感じるほどの猛暑に対してうんざりしています。そして猛暑は私たちの日常生活に影響を与えています。特に農作物はこれだけ雨が降らず高温状態が続くと実りに影響を受け、野菜や果物をはじめ、値段が上がりつつあります。一方、台風や大雨によって九州の農家では大きな被害を受け、作物の収穫ができないという報道があります。お盆の時期に雨が降るなどして一時期は気温が下がりましたが、お盆が明けると暑さが戻り、9月も続くと言われています。それでも「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があります。また日の入りも早くなりつつありますので、気温が下がり秋へと向かうことに私は期待しています。

ここでは、今、日本で起きている気象に関することを話題として、私たちの身近な場所で起きていることを取り上げました。自然の変化に限らず、私たちが生活する環境は大きく変化しようとしています。そのため、世の中の動きに敏感に感じる必要があると私は思っています。取り巻く環境の変化に対して、経験に頼る時代は終わり、常に学び続けることが大切な時代が到来したと実感するこの頃です。将来の予測が困難であると言われる時代です。これからの日本は、また世界はどのようなようになっていくのでしょうか。そして私たちはどのような生き方をすればいいのでしょうか。

2学期始業式の校長訓話のテーマは「世の中の動きに関心をもつ～社会とつながる～」でした。「社会とのつながりを意識し、これからの自らの生き方を考えながら有意義な高校生活を送ることが大切であること。そして、自分をみつめ、常に小さな目標を作って行動しよう！」というメッセージを生徒の皆さんには送りました。私たちは社会の中の一員です。学校はその社会と無関係ではありません。現在の社会は、様々な人がいて多様性が注目されるようになり、個が重んじられることは時代です。一方で社会の一員である以上は、ルールやマナーそしてエチケットを身につけ、チームをつくって集団で行動することができることも必要な力で社会性を身につけることは必要です。教科の学びは人が生活をする上での基礎や土台となるものであり、学校における探究的な活動をはじめ、学校行事や部活動などの教育活動は、将来、社会とつながっていく必要となる学びとなります。私たち教職員は生徒の皆さんの学校生活が充実したものとなるよう環境を整え、指導することになります。世の中の動きに関心をもちつつ、これからの時代に即した、本校ならではの教育に取り組んでまいります。